

# 第2回 次の世代に向けた庁舎機能の 移転・集約に関する住民説明会のお知らせ

仙北市は、市議会に次の世代に向けた庁舎機能の移転・集約を提案しています（内容は、広報せんぼく 12月号 2～7ページに掲載しています）。

令和5年10月下旬には、市内3か所で住民説明会を開催しました。主なご意見は3～7ページに掲載していますが、より皆さまのご意見を伺いたいたため、2回目の説明会を下記の日程により開催します。

お住まいの地区にかかわらず、どこの会場にも参加することが可能ですので、ご来場ください。

また、田口市長が庁舎機能の移転・集約について語る動画を仙北市公式 YouTube（ユーチューブ）チャンネルで配信していますので、ご覧ください。

開催日時	開催場所
1月16日（火）18:30～	田沢湖総合開発センター 1階 大集会室
1月17日（水）18:30～	仙北市役所角館庁舎 2階 201・202 会議室
1月19日（金）18:30～	西木総合開発センター 2階 大集会室

※参加にあたって申込みの必要はありません

田口市長のメッセージは  
こちらから↓



問合せ：仙北市企画部 企画政策課 ☎ 43-1112 FAX 43-1300  
仙北市総務部 管財課 ☎ 43-1114 FAX 43-1300  
仙北市代表メール：semboku@city.semboku.akita.jp

代表メールは  
こちらから↓



## 第1回 次の世代に向けた 庁舎機能の移転・集約に関する 住民説明会を開催

次の世代に向けた庁舎機能の移転・集約に関する住民説明会を市内3か所で開催しました。

10月24日には田沢湖総合開発センター（85人参加）、26日には市役所角館庁舎（73人参加）、27日には西木総合開発センター（39人参加）で開催し、出された質問や意見を要約して報告します。

### 田沢湖会場の意見・質問要約

質① 今回の件は、新聞報道で市民が知ることになった。全市民に分かる形で周知すべきではなかったか。もう少し丁寧に時間を置いて全体に周知するような形の打ち合わせをしてもらいたかった。

答① 市民の声を市議会議員全員協議会で報告し、市議会とともに今後の方向性を定めていきたい。

質② 借入限度額ギリギリまで合併特例債を使うと、後が大変困難、財政が不安定になり、大変だという意見が多く出されていた。合併特例債があるからということでのよいのか。

答② 財政の健全性については、大変厳しい状況ではあるが、ふるさと納税でカバーしている状況にある。しっかりと協議しながら今後も事業を見直し、より効率的な運営を行っていききたい。

質③ 今後のいろいろなサービスで言えば、例えば国民健康保険の引き下げ、子育ての具体的な対策、学校教育の充実のために便宜を図るなど具体的なものを要望しているが一切出ていない。もっと具体的な説明がほしい。

答② 本来の市民サービスに使うお金を次の世代が庁舎維持費用の捻出に汲々として進めることは本末転倒である。合併特例債は合併に資する施設の整備にのみ活用できるもので、残念ながら市民生活に直接寄与する給付金などには使えないものである。

質④ 水道、上下水道の会計で毎年15億円、去年の決算で15億6220万円の赤字計上している。くみ上げた水の50%以上が漏れている。13億円をもらうために時間がどうこういう前に上下水道を改良しろと言いたい。

答④ 10年かけて更新していく予定だが、その更新する予算を捻出するためにも、今回下水道の料金を改定させていただいた。市としてもしっかりと計画に落とし込んでまいりたい。

質⑤ 田沢湖地域は災害時孤立する可能性が十分ある場所だ。その場合、田沢湖庁舎の職員だけで対応可能か。

答⑤ 状況によっては田沢湖に災害対策本部を置く考えもある。

質⑥ バリアフリーは全ての庁舎に考慮してほしい。

答⑥ 田沢湖庁舎の2階も公民館として検討しているので、真摯に考えたい。

質⑦ 観光の魅力だけではなく、住む魅力、子どもが増えていくように、未来を考えてほしい。

答⑦ 高齢化が進み、交通弱者が出てきていることから、医療Maasに今取り組んでいる。また、行政Maasをこれから検討したい。

質⑧ 広報に庁舎機能の移転・集約の記事が載らなかったこと、説明会の回数が少ないことが疑問だ。

答⑧ 周知の仕方については、非常に重く受け止めている。

質⑨ 旧角病解体は、今の市の財政で行えばいい。30年後に影響するということであれば、それをどうして2か月で決めるのか。もっと時間をかけるべき。

答⑨ 11月の市議会議員全員協議会で、今回のいろいろな意見を議会に報告し、しかるべき時期に議案として上げたい。

質⑩ 上野庁舎に集約しなければ、市民サービスができないのか。庁舎よりもやるべき事業がたくさんある。庁舎移転も含めて今後の仙北市がどのようになっていくのか、我々は見えていない。

答⑩ 今時代はデジタル化を進め、デジタルの力で皆さんにサービスを落とさない形で、この地域を存続させていくことが大きな使命である。また、若者が帰ってこないことも幸福度を上げてここにいる人たちがみんなが幸せであれば戻ってくると考えている。今、その財源がなかなか確保できていないが、子どもたちの教育環境、子育て環境も整えながら仙北市を次の世代に渡せるように努力してまいりたい。

質⑪ 若者にどんどん発信して、このような会に参加して意見をもらう方がよい。

答⑪ いろんな形で説明する機会を設けさせていただきたい。

質⑫ 田沢湖庁舎の耐久年数をあと30年増す工事が可能か、検討したか。

答⑫ 30年後にどれだけお金がかかるかということ想像できて、責任を持って金額を提示できる業者はいないと考える。

質⑬ 角館庁舎を最後30年後に一本化するときに、角館庁舎のポリシーで業務が全部間に合うのかどうかの検討、計画をしているか。

答⑬ 人口と比例して職員も減る見込みである。これまで通りの庁舎のあり方や職員の体制を維持していくのは、非常に厳しい。デジタルを使ったりの方が、さらに発展していると考えてるので、そういうものにシフトしていく必要がある。

質⑭ 行政側が市民に与えるためのサービスはメリットがあると思うが、市民がサービスを受けたいときのメリットはあるか。

答⑭ 庁舎にお金を使うのはこれで最後にし、市民の幸福度を上げるための予算を捻出するための今回の提案である。

質⑮ 集約された場合、会議が全部角館だけではなく、田沢湖、西木でも行っしてほしい。

答⑮ 皆さんからの声を反映させた上で、今後の体制について検討していく。

質⑯ 災害のときに田沢湖が取り残されるのではないかと不安だ。

答⑯ 場合によっては、災害対策本

部が田沢湖に移るとも考えられる。

質⑰ 令和22年度の人口で仙北市がやっけていくことは無理だ。他自治体に吸収される。この事業はそうならぬようにする一つの案だ。田沢湖庁舎がなくなることは、本当に残念だが仕方ない。時代の進化にしがみついても、慣れこめていくしかない。

答⑰ 人口減少によって今まで当たり前だったものが当たり前ではなくなっている。そのような時代に今我々は直面してきている。大変厳しい現実ではあるが、その現実から目を背けないで、しっかりと市政を前に進めていく。

質⑱ 上野庁舎は、角館庁舎から700メートルぐらい離れているが、防災面から考えると遠いのではないかと。角館庁舎に隣接した場所が妥当ではないか。

答⑱ 交流センターを改修して敷地内にもう一つ建てる案と、今の角館庁舎を3階にする案を検討した。交流センターについては敷地が非常に狭く、建物が特殊な形をしているため、今回提案した事業費よりも掛かり増しになる。角館庁舎の3階は構造的に無理だということがわかった。また、これらの場合、旧角館の解体

に合併特例債が充てられない。

質⑲ 負の遺産にならないようしっかり先を見据えた計画にしてほしい。

答⑲ そういったものがないように努めてまいりたい。

質⑳ 経済が衰退していくという考えだから、集約しなければならぬという議論になる。経済を成長させるためには、どうしたらいいのかを先に考えるべき。

答㉑ 非常にハードルが高いが、インターナショナルスクールの誘致、サテライトオフィスの誘致をしている。また、ふるさと納税でも頑張っている。前向きな政策も進めてまいりたい。

質㉒ もう少し丁寧に時間をかけて、説明してほしい。65歳以上の人口がずっと増えていく。65歳以上の人がここでの暮らしに満足いくような施策があった上で、今の事業が出てくると納得する。

(意見のみ頂戴したものを)

質㉓ 合併特例債に何かこだわりすぎている。もう一回くらは説明会を開いてほしい。

答㉓ またもう一度説明会を通じて皆さまからも質問いただきたい。

## 角館会場の意見・質問要約

質㉔ 広報への掲載やパブリックコメントをやらぬのか。

答㉔ 今のところ予定はないが、皆さまのご理解を得るために、どのような方法が必要か、もう少し時間をかけるべきかというところを見定め、今後進めていきたい。その中で、例えば広報で計画を周知するということも考えている。

質㉕ 一度でも議会の否決などで後ろ倒しになったときに、この工期で間に合うのか。

答㉕ ある程度余裕を持った工期に設定している。相当のことがない限りは今回の工期で間に合う。間に合わない場合、合併特例債が使えないという事態になるため十分に注意して進めたい。

質㉖ 出張所になったときの市民へのデメリットは何か。

答㉖ 国土調査業務での閲覧や空き家の相談、納税相談が田沢湖できていたものが、上野庁舎になる。ただし、田沢湖市民センターを拡充してこれらをフォローしたいと考えているため、大きな影響はないと考えている。

質㉗ スピーディにしっかりと余裕を持って終わらせてほしい。

答㉗ なるべく早くスタートして、なるべく早く確実に完成させたい。

質㉘ あまり希望がない街だなと思いつながら今暮らしている。今急いでも借金はやはり将来に残されていくのではないかと。もう少し時間をかけて、どんな地域作りをしていきたいのか、みんな納得した上で進めていく必要があるのではないかと。中心部が失われていくときに地域も賑やかさが失われ過疎化されていくのではないかと。

答㉘ 確かに公債の借入れにはなるが、それによって得られる財政メリツトが大変大きい。これをやることで仙北市民にメリツトもあると確信して提案させていただいた。また、移転集約した場合の事業費約19・9億円、移転集約しない場合約9・9億円、これは移転集約することにより約19・9億円の建設業などの商売が増えることなど、決して夢がない訳ではない。公債は増えるが、お金の循環が生まれることを考えていただければありがたい。

質㉙ 国に対しても交付金をもっと上げるといふ声を出すべきではないか。

答㉙ 中央省庁をまわって要望はいくらでもやっていきたい。



質⑳ 合併特例債を満額使うと、かなり返済が厳しくなるのではないかと。

答㉑ 財政の硬直化、例えば借金の返済や人件費、扶助費などの経常的な経費の割合が98・4%と非常に高くなっている。ただ、ふるさと納税の収入が大変好調で、今はそれまかなうことができているが、恒常的な財源の中で、財政運営をしていけるように取り組んでいきたい。

質㉒ 今回否決の場合、本庁舎はどこでもいいので、速やかに旧角病を解体する対案を出してもらいたい。

答㉓ 議案については、議決をしていただかなければ、我々は執行できない。非常に難しい案件である。何とか今ここで踏みとどまって、ここから仙北市を少しでも改善していきたい。

質㉔ 解体する建物は処分して、いくらでも財政を切り詰めてやってもらった方がいい。

答㉕ 限られた財政の中で順々に整理をしながら、負の遺産を次世代へ残さないよう、しっかりやっていきたい。

## 西木会場の意見・質問要約

質㉖ どうして分庁舎方式を選んだのか、今角館に庁舎をもってくる姿を当時の人は、どうみているのか元議員なり県議なり、前市長にアンケートを取るべきだ。

答㉗ お辞めになった方にアンケートを答えてもらうのは、難しいと感じている。そのような意見があったことは議会に報告する。

質㉘ 災害時の機動力とあるが、どの程度の災害を想定されているのか。

答㉙ 角館庁舎との距離が700メートルで近くなるため、災害対策本部も一か所で行えることになることと、災害時の強化という意味として、ご理解いただきたい。



質㉚ 本庁舎の名称について、現在ある角館庁舎を仙北市第2庁舎として、改修する庁舎を仙北市第1庁舎としたらどうか。

答㉛ 議会にも報告し、検討したい。

質㉜ 角館庁舎を建てて、2年も経たないうちに、また庁舎を建てるということを決定されても納得できない。生保内の人は、みんな角館に行かなければならない。

答㉝ 各地に配置している最寄りの出張所で、全てのものできるように考えている。

質㉞ 市民の幸福度、市民生活をよくする、災害の問題、これらについて今の体制では、なぜできないのか。位置の問題ではない。

答㉟ 合併特例債というのは、合併に資する施設の整備にしか使えないため、合併特例債を市民生活への給付金などには使えないということになる。旧角病など今整理してしまわないと、次の世代がさらに大きい負担を強いるということと、今回提案させていただいた。

質㊱ 解体は必要だが、物価高騰の今やることは、非常にリスクが大きい。

い。上下水道、公共交通、道路・橋の改修、熊対策に予算を向けず、本庁舎の移転は間違っている。市民生活に今必要なことをやってほしい。市の負担6億円を現在の我々の幸福度を上げるために使ってほしい。合併特例債は、借金だから使うのをやめた方がいい。

答㊲ 去年1年間で新生児は出生数が70人で、このままではこの地域は存続できなくなることから、先を見据えてこのような提案を申し上げている。できる限りそのような用件にお答えさせていただくが、非常に財政的に厳しい中で運営をしているので、何とかお金を生み出して皆さまに寄り添ったサービスをしていきたい。

質㊳ 少子化、人口減少、このような状況を少しでも改善するところにお金を使ってほしい。まず我々の幸福度を上げてほしい。

答㊴ 今までのやり方では、人口減少に歯止めがかからない状況で、新しいことにチャレンジしなければならぬ中での提案であり、議会と市民の皆さまからの意見を真摯に受け止めながら、討論してまいります。

質③⑨ 今後の未来、仙北市を背負っていくのは、私たちの世代なのでちゃんと壊さなければいけない病院の解体などを今やっつけてほしい。

答③⑨ ここを故郷として、これからもここで生活をしていく我々の子孫のために、我々も今ここで生活できるのはそういう先祖がいたからだと思います。今、自分たちがよければいい、また次の世代のことは、また次の世代が考えればいい、ということでは、今我々が受け取っているバトンを渡せなければ、責任を果たしたことはならない。そこで次世代を考慮した移転・集約について、提案させていただいている。

質④⑩ アスベストが原因になっていて不安だと思うので、早めに解体し一つに庁舎をまとめてしまえば、浮いたお金をほかのことに回せるので、今やっってしまった方がいい。

答④⑩ 市民の安心安全な生活、暮らしを守ることは市政の基本にあるが、自主財源で7億円を持ち出して解体することは、なかなか厳しい財政状況の中で、合併特例債という非常に有利な起債が利用できることから、今回提案させていただいている。

質④⑪ 旧角病のアスベストは、どの程度の影響が近隣の住民にあるのか。

答④⑪ 建材、建物の壁など経年劣化で落下し、怪我をされる可能性もある。経年劣化で割れた建材から、アスベストが吹き出す可能性があり、そのような危険がある。

質④⑫ 将来の子どもたちも大事だが、今ある自分たちを分断する、そうした表現は、何かおかしいし納得いかない。今いる人たちが、やはりここがいいと言ってもらえることが、大事なのではないか。

答④⑫ 今暮らししている方々も、未来の仙北市に暮らししている方々も、どちらも分断せず幸せになってほしいので、今回の提案をさせていただいている。将来に負担を残すと、将来の方々は幸せになれないし、今暮らししている方々についても手厚く、今やれる限りの市民サービスを低下させないように努めたい。

質④⑬ 副市長の説明のもの（医療MasS、PHR）は、直接その本庁舎の移転業務とは関係ないのではないか。

答④⑬ 若い人たちに夢を与えたいとの思い、また、高齢者の方も健康寿命を延伸していただいて、健やかに

生活していただく仙北市を描くために、紹介させていただいた。

質④⑭ 7、8年前も議会で却下されて今の状態だ。12月定例会にかけて同じ繰り返しをしないでほしい。ぜひ対策を出して、いい方法を見つけてほしい。解体だけでもお願いしたい。

答④⑭ もっと前にやっておかなければいけない問題だが、結果的にまだ建っている。旧角病を解体するためには7億円の予算を計上しなければいけない中で、それを借り入れすると、毎年7300万円の返済がすぐ始まってしまうことから、今回庁舎の移転・集約を一緒に提案させていただいた。

質④⑮ 今の角館庁舎を建てるとき、一緒に病院を解体するという契約で合併特例債を使ったのではなかったか。

答④⑮ 今の角館庁舎を建てるときに合併特例債を使って解体すると申し上げたことはない。旧角病の敷地を利用して庁舎を整備する場合の解体については該当になるが、離れた位置に角館庁舎を建てたので、旧角病の解体に合併特例債を充てることはできなかった。

質④⑯ アスベストの状況は、今のままでいいと思っていない。近隣の人はどのくらいいるのか。解体する費用を合併特例債を使ってやるべきなのかは、別の問題であると思う。

答④⑯ 人の命というのは1人でも数百人でも数千人も一緒だと思うので、危険を感じている方がいらっしゃる限りは、解体すべきと考えている。

質④⑰ 旧角病の解体が急務だとすれば、特例債を使わずに6・7億円を市独自でやればいい。

答④⑰ 市他の事業をやめなければ、解体にお金を振り向けることは無理だと考える。市独自の場合は、除却事業債を使う。7300万円ずつ年に返していかなければならない。これが仙北市にとって、どれだけ大きいお金かということをご理解いただきたい。

